

第十四條 浪費シテ産ヲ破リ其分ニ應セサル負債ヲ爲ス者ハ過失ノ一タルヘシ

第十五條 官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

第十六條 凡ソ局長所長其他一部ノ長ハ各所屬官吏ヲ監督シ其過失若シ懲戒處分ヲ行フノ區域ノ内ニ在ラ

サル者ハ之ヲ訓告スルコトヲ務ムヘシ若シ懲戒處分ヲ要スト認ルトキハ事狀ヲ具ヘテ之ヲ本屬長官ニ稟

告スヘシ其情ヲ知り隠蔽シテ稟告セサル者亦過失タルコトヲ免レズ

第十七條 本紀律ハ高等官判任官及俸給ヲ得テ公務ヲ奉スル者ニ適用ス

官吏恩給法

明治三十三年六月二十日  
法律第四十三號

第一條 文官判任以上ノ者退官シタルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 在官滿十五年以上ノ者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ終身恩給ヲ給ス

一 年滿六十歳ヲ超エ退官ヲ許シタルトキ

二 傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退官ヲ許シタルトキ

第三條 廢官廢廳若クハ官廳事務ノ伸縮又ハ非職滿期ニ依リ退官シタルトキ

第二條 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身恩給ヲ給シ尙其最下金額十分ノ七マ

テノ増加恩給ヲ給ス

一 公務ニ因リ傷病ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタル

トキ

二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一

肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退官シタルトキ

第四條 滿五年以上國務大臣ノ職ニ在ル者退官シタルトキハ第二條ノ制限ニ拘ハラズ恩給ヲ給ス

第五條 恩給ノ年額ハ退官現時ノ俸給ト在官年數トニ依リ之ヲ定ム即チ在官滿十五年以上十六年未滿ニシ

テ退官シタル者ノ恩給年額ハ俸給年額ノ二百四十分ノ六十トシ十五年以後滿一年毎ニ二百四十分ノ一ヲ  
加ヘ滿四十年ニ至テ止ム但在官四十年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十五年未滿ノ者ニ給スヘ  
キ恩給ハ十五年ノ額トス

非職滿期ニ由テ退官シタル者ノ恩給ハ其在職最終ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

實際官及領事貿易事務官等ノ恩給ハ其官等ニ對スル普通文官ノ俸額ニ依テ之ヲ算定ス

兼官ニ依テ受クル加俸ハ恩給年額ヲ算定スルニ當リ之ヲ除算スヘシ

恩給年額圓位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

第六條 恩給ヲ受ケ又ハ恩給ヲ受ケスシテ退官シタル者在官中ノ公務ニ起因スル傷病疾病引續キ重症ニ趨

キタルトキ其事由ヲ詳悉シ左ノ期限内ニ申出レハ査覈ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 一肢ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後二箇年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ又ハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シ若クハ之ニ準スヘキ者ハ退官後三

箇年

第七條 在官年數ハ判任官以上初任ノ月ヨリ起算シ退官ノ月ヲ以テ終リトス

明治四年八月以前ヨリ任官セテシタル者ハ同年同月ヨリ起算ス但本項ニ掲クル者退官スルトキハ明治四

年七月以前ノ勤務ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其

年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第八條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ニ算入スヘシ

一 判任以上出仕官ニ在ルノ月數

二 武官ヨリ文官ニ轉シタル者ハ軍人恩給ヲ受ケスシテ現役ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ其現役中

ノ日數

- 三 從軍年加算ノ年月
- 四 非職及休職中ノ月數
- 五 退官ノ後再ヒ任官シタル者ハ前在官ノ月數
- 六 宮内官ヨリ文官ニ轉シタル者又ハ恩給ヲ受ケスレテ宮内官ヲ退キタル後文官ニ任シタル者ハ宮内判任官以上在官中ノ月數

第九條 左ニ掲クル月數及日數ハ在官年數中ヨリ除算スヘシ

- 一 年齢二十歳未満者ノ在官月數
  - 二 高等官試補及判任官見習中ノ月數
  - 三 郡區判任官ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官職ニ在ル月數及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ル月數(三十二年二月六日法律第十號ヲ以テ改正)
  - 四 御用掛雇等外出任勤仕ノ月數
  - 五 第八條第二ニ掲クル者ニ在テハ軍人恩給法ニ依リ除算スヘキ日數
  - 六 自己ノ便宜ニ依リ退官シタル後又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル後再ヒ任官シタル者ニ在テハ其前官ノ月數
- 第十條 文官ニシテ從軍シタル者ハ軍人恩給法ノ算則ニ照シテ其從軍年ヲ加算ス
- 第十一條 恩給ヲ受クル者再ヒ官ニ就キ滿一年以上在官シタル後退官シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス
- 一 退官現時ノ俸給前後相同シカラサルトキハ前官年數ヲ後官ノ年數ニ通算シ後官ニ對スル恩給額ト前ノ恩給額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス
  - 二 退官現時ノ俸給前後相同シキトキハ在官年數ニ依リ恩給ヲ增加ス但前官十五年未満ニシテ恩給ヲ受

ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十六年以上ニ至ラサレハ增加セス

- 第十二條 恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルハ恩給ヲ剝奪ス
- 左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間恩給ヲ停止ス
- 一 判任以上ノ官ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキハ此限ニアラス
  - 二 公權ヲ停止セラレタルトキ
- 第十三條 年齢未タ六十歳ニ至ラスシテ自己ノ便宜ニ依リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ依リ免官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ
- 法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員並市長町村長助役收入役名譽職參事會員及東京市京都市北海道ノ區長ト爲リタルノ故ヲ以テ退官シタル者ハ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ハス(上)
- 第十四條 郡區判任官ヲ除クノ外政府ヨリ俸給ヲ受ケサル官吏及商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ハ恩給ヲ受クルノ權ナキモノトス但郡區書記ハ此限ニアラス(上)
- 商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官吏並ニ高等官試補判任官見習ニシテ公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ此法律第三條ニ該當スル者ニ限リ退官又ハ罷免現時ノ俸給四分ノ一ヲ終身支給スルコトヲ得
- 第十五條 恩給支給ノ期ハ退官ノ翌月ヨリ始マリ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス
- 第十六條 恩給ハ之ヲ受ケヘキ事由ノ生シタル後三箇年內ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス
- 第十七條 恩給ノ支給ハ本屬長官ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス
- 行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以內ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷痍疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪エルト否ヲサルト

第十八條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十九條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル者ハ總テ其恩給令ニ依ルヘシ但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律施行前ニ退官シタル者ノ恩給ハ明治十七年達官吏恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ日ヨリ三箇年内ニ請求セザレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第二十一條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス  
從前ノ命令ニシテ此法律ニ牴觸スルモノハ總テ廢止ス

○官吏恩給法施行規則

明治二十三年七月二日  
閣令 第三號

第一章 恩給ノ請求

第一條 官吏恩給法第二條第三條第六條及第七條第二項第十四條第二項ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ退官當時ノ本屬廳ノ長官ニ差出スヘシ但廢官廢廳ニ當リタルトキハ其事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ノ長官ニ差出スヘシ

第二條 官吏恩給法第四條ニ依リ恩給ヲ受クヘキ者ハ恩給請求書ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第三條 恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在官中履歷書

二 市町村長ノ證明シタル戸籍調書

但官吏恩給法第十四條第一項ニ掲ケタル者ハ之ヲ添付スルニ及ハス  
第四條 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ請求スル者ハ前條ニ掲ケル書類ノ外左ノ書類ヲ以

テ其事實ヲ證明スヘシ官吏恩給法第六條ニ依リ恩給ヲ請求スル者亦同シ

一 現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書

二 醫師ノ診斷證書

第五條 恩給ノ請求ヲ受ケタル各廳長官ハ查覈ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ請求者ノ在官年數及恩給年額計算書ヲ作リ證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

各廳長官ニ於テ請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第六條 内閣ニ於テ前條ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作リ本屬廳ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 恩給ノ支給

第七條 恩給ハ其年額ヲ四分シ四月七月十月一月ニ於テ其前三箇月分ヲ大藏省ヨリ本人居住地ノ地方廳ヲ經テ支給ス但權利消滅若クハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ハラズ之ヲ支給ス(明治二十七年閣令第五號ヲ以テ改正)

(參照)

大藏省令第二十四號 (明治二十三年十月一日)  
本年法律第四十三號第四十四號第四十五號ニ據リ恩給及扶助料ヲ受クルモノハ每期受領ノトキハ本人生存證書ヲ恩給證書ニ添ヘ差出スヘシ

第八條 恩給ヲ受クル者其金額ヲ受領セントスルトキハ恩給證書ヲ以テ其受領權アルコトヲ證明スヘシ

第九條 恩給ヲ受クル者他ノ地方ニ居住ヲ轉スルトキハ恩給支給ノ月ヨリ三十日以前其旨ヲ新舊居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ若シ此ノ期日ヲ過キ届出タルトキハ其ノ一期ノ金額ハ尙ホ從前ノ地方廳ニ於テ支給ス  
地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ各廳間互ニ其ノ者ニ係ル恩給支給ノ受繼ヲ爲シ其ノ引繼ヲ受ケタル地方廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ(同上本條改正)

第十條 官吏恩給法第十二條ニ當リタル者ノ恩給支給ノ終始ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ其失ヒタル日ヲ以テ支給ヲ終ル

二 判任官以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキハ俸給ノ支給ヲ始ムル日ノ前日ヲ以テ支給ヲ終リ其退官シタルトキハ俸給ノ支給ヲ終リタル日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

三 公權ヲ停止セラレタルトキハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラルヘキ確定裁判ノ宣告ヲ受ケタル日ヲ以テ支給ヲ終リ刑期滿限ノ日ノ翌日ヨリ支給ヲ始ム

第十一條 官吏恩給法第七條第二項ニ掲クル月俸トハ明治四年六月東京淺草米廩ノ平均相場ニ依リ當時ノ官祿一箇月分ニ相當スル金額トス

第十二條 官吏恩給法第三條ニ掲クル最下金額十分ノ七マテノ増加恩給ノ等差ハ左ノ如シ

第一項 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキハ 十分ノ七

第二項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ六

第三項 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ五

第四項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ四

第五項 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ 十分ノ三

第六項 前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ 十分ノ二

傷痍疾病ノ等差ハ明治十八年達文官傷痍疾病等差例ニ依ル

第十三條 恩給ヲ受クル者重罪若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其確定裁判ノ宣告ヲ爲シタル裁判所ヨリ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ

第三章 恩給ノ停止

第十四條 官吏恩給法第十二條第二項ノ第一ニ當ル者アルトキハ其任用シタル官廳ヨリ大藏省ニ通知スヘシ解任シタルトキモ亦同シ但此通知書ニハ本人恩給ノ支給ヲ受ケタル地方廳名及俸給ノ支給ヲ始ムル日

(解任ノトキハ支給ヲ終リタル日)ヲ付記スヘシ

第十五條 恩給ヲ受クル者死去シタルトキハ其遺族ヨリ地方廳ニ届出ヘシ其遺族ニシテ扶助料ヲ受クヘキ權利ナキトキハ死去ノ届出ヲ爲スト同時ニ恩給證書ヲ返納スヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ大藏省ニ通知シ其恩給證書ヲ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十六條 大藏省ニ於テ第十三條第十四條第十五條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ内閣恩給局ニ通知シ且第十三條第十四條ノ場合ニ於テハ地方廳ニ通知シテ其恩給ノ支給ヲ停止シ又復給セシムヘシ

地方廳ニ於テ此通知ヲ受ケタルトキ其恩給ヲ剝奪スヘキモノハ恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第四章 雜 則

第十七條 水火災盜難等ニ由リ恩給證書ヲ亡失シタル者ハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ

地方廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其實事ヲ調査シ亡失ノ事由ヲ具シテ内閣恩給局ニ申出ヘシ此場合ニ於テ恩給局ハ恩給證書ノ謄本ヲ作り地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ

前項恩給證書ノ謄本ハ恩給證書ト同一ノ效力アルモノトス

第十八條 恩給ヲ受クル者改氏名シタルトキハ居住地ノ地方廳ニ届出ヘシ地方廳ハ恩給證書ノ裏面ニ其事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上本人ニ下付シ其旨ヲ内閣恩給局及大藏省ニ通知スヘシ

第十九條 明治十七年達官更恩給令ニ依リ恩給ヲ受クル者ノ左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル  
一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ  
二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ(同上)  
第二十條 官吏恩給法第二十條ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ  
第二十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

○文官傷痍疾病等差例

明治十八年三月二十七日  
太政官達第十六號

官吏恩給令附則第五條傷痍疾病等差例左ノ通相定候條右ニ據リ取調候儀ト可心得此旨相達候事

文官傷痍疾病等差例

官省院廳府縣

- 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナリ官吏恩給令附則第五條ニ掲クル各項ニ該當スル者ニ等差ヲ付スルコト概テ左ノ如シ
- 第一條 偏眼ヲ盲スル者全鼻ヲ失スル者ハ共ニ第五項トシ之ニ偏耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ第四項トス
  - 第二條 兩耳ヲ聾スル者ハ第四項トス
  - 第三條 偏眼兩耳ノ官能ヲ併セ廢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス
  - 第四條 一眼ヲ失ヒ他ノ一眼暗昧シ僅ニ自己ノ用ヲ辨スルヲ得ル者ハ第二項トス
  - 第五條 咀嚼言語ノ兩機能ヲ併セ廢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス
  - 第六條 咀嚼ノ用ヲ廢スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トシ幾分ノ障礙アル者ハ第五項其輕キ者ハ第六項トス
  - 第七條 精神亡失或ハ錯亂シテ常ニ看護ヲ要スル者ハ第一項トス
  - 第八條 癡呆若クハ健忘症ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第三項若クハ第五項トス
  - 第九條 神經痛ヲ遺シ常ニ看護ヲ要セサル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

第十條 言語ノ機能ヲ廢スル者ハ第三項トシ言語ノ機能ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス

- 第十一條 胃腸膀胱等ニ滲管ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第二項或ハ第三項トス
- 第十二條 腸歇爾尼亞ヲ遺ス者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十三條 陰莖或ハ睪丸ヲ全失スル者ハ第三項トス
- 第十四條 陰莖ヲ半失スル者偏睪丸ヲ失スル者ハ共ニ第六項トス
- 第十五條 頸項背腰諸筋ノ運用ヲ妨クル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第十六條 一肢ヲ失ヒ且他肢ノ用ヲ全廢スル者ハ第一項トス
- 第十七條 一上肢ヲ失フ者ハ肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス
- 第十八條 肩關節ヨリ腕關節ニ至ル間ノ關節作用ヲ廢スルモ全肢ノ用ヲ廢スルニ至ラサル者ハ第六項トス
- 第十九條 一手ニ於テ四指以上ヲ失スル者ハ第四項トシ五指癒著若クハ強硬等ノ爲メニ把握採摘ノ用ヲ廢スル者ハ第五項トス
- 第二十條 一手ニ於テ四指或ハ五指ノ各一部ヲ失スルモ尙把握ノ用ヲ爲シ得ル者ハ第六項トス
- 第二十一條 一手ニ於テ拇指示指ヲ併セ失スル者或ハ拇指示指ヲ除キ他ノ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十二條 一下肢ヲ失スル者ハ股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ハ何レノ部位ヲ論セス第三項トス
- 第二十三條 股關節ヨリ踝關節ニ至ル間ノ作用ヲ妨ケラレタル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第五項或ハ第六項トス
- 第二十四條 跗骨ヨリ蹠骨ニ至ルノ部ヲ失スル者ハ何レノ部位ヲ論セス第四項トス
- 第二十五條 一足ニ於テ五指ヲ失スル者ハ第五項トシ第一指ヲ併セ三指ヲ失スル者ハ第六項トス
- 第二十六條 不治病ノ爲メ常ニ看護ヲ要スル者ハ(輕重ヲ酌量シテ)第一項或ハ第二項トス

- 第二十七條 不治病前項ヨリ輕キモ步行スル能ハサル者ハ第三項トス
- 第二十八條 不治病前項ヨリ輕キモ自己ノ用辨ニ妨碍アル者ハ第四項トス
- 第二十九條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ヲ爲シ難キ者ハ第五項トス
- 第三十條 不治病前項ヨリ輕キモ營業ニ妨ケアル者ハ第六項トス

○官吏遺族扶助法

明治二十三年六月二十日  
法律第四十四號

- 第一條 文官判任以上ノ者左ニ掲ケル事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有ス但第二條ノ納金ヲナスヘキ義務ナキ者ノ遺族ハ此限ニ在ラス
  - 一 在官十五年以上ノ者在官中死去シタルトキ
  - 二 在官十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ
  - 三 恩給ヲ受クル者死去シタルトキ
- 第二條 文官判任以上ノ者ハ其俸給百分ノ一ヲ國庫ニ納ムヘシ
- 第三條 交際官及領事貿易事務官等其俸給普通文官ヨリ多額ナルトキハ普通文官ノ俸給ニ依リ少額ナルトキハ現ニ受クル所ノ俸給ニ依リ第二條ノ納金ヲ爲スヘシ
- 第四條 寡婦扶助料年額ハ亡夫ノ受ケタル若クハ受クヘキ恩給年額三分ノ一トス  
公務ノ爲メ受ケタル傷病ニ原因シテ死去シ又ハ非常ノ勞働及困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死去シ又ハ公務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病ニ感染シテ死去シ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死去シタル者ノ寡婦扶助料ハ亡夫ノ俸給ニ對シ官吏恩給法第五條ニ依リ算出シタル恩給年額三分ノ二トス

扶助料年額四位未滿ノ數ハ圓位ニ滿タシム

- 第五條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死去シ若クハ權利消滅シタルトキハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス
- 第六條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ戸主ニ非サル者ノ孤兒ニ在テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツルトキハ順次年少者ニ轉給スルモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニス
- 第七條 恩給ヲ受ケタル者ノ寡婦ニシテ其夫退官後結婚シタル者ハ扶助料ヲ受クルコトヲ得ス
- 第八條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歲未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル
- 第九條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス
- 第十條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒戶籍ヲ去リ若クハ死去シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得
- 其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル
- 第十一條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死去シタル者ノ戶籍内ニ在ル二十歲未滿又ハ廢疾若クハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ラス一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得
- 第十二條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第十三條 扶助料ハ買賣讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス  
第十四條 扶助料ヲ受クルノ權利ハ左ノ時ヨリ消滅ス

- 一 寡婦死去又ハ婚嫁シ若クハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月
- 二 孤兒死去又ハ婚嫁シ又ハ他家ノ養子女トナリ又ハ年齡二十歳ニ滿チタル月ノ翌月
- 三 父母祖父母死去シ又ハ戸籍ヲ去リタル月ノ翌月

第十五條 孤兒二十歳ニ滿ツルモ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス他ニ給養スル者ナキトキハ寡婦扶助料ノ三分ノ一ヲ其孤兒ニ各終身給スルコトヲ得但一戸籍内ニ寡婦ト同額ノ扶助料ヲ受クル者アルトキハ其間之ヲ給セス

第十六條 扶助料ヲ受クル者日本臣民タルノ分限ヲ失ヒ若クハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ扶助料ノ支給ヲ廢ス  
公權ヲ停止セラレタルトキハ其間支給ヲ停止ス

第十七條 扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス  
第十八條 扶助料ノ支給ハ地方長官ノ申牒ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ因リ扶助料ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一箇年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 明治十七年遠官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ受ケタル者及恩給ヲ受ケタル者ノ遺族扶助料ハ總テ其恩給令ニ依ルヘン但其權利消滅及停止ハ此法律ニ依ル

第二十條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

○官吏遺族扶助法施行規則 明治二十三年七月二日 閣令 第四號

第一章 扶助料ノ請求

第一條 官吏遺族扶助法第一條第一第二及第十七條ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料又ハ一時扶助金請求ノ證ト爲スヘシ

第二條 官吏遺族扶助法第一條第三ニ當ル者ノ遺族ハ其恩給證書ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ

第三條 官吏遺族扶助法第四條第二項ニ當ル者アリタルトキハ本屬廳ニ於テ事實ヲ查覈シ其傷病若クハ疾病ノ公務ニ起因シタル證據トナルヘキ書類及醫師ノ診察ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其診斷書ヲ併セテ其遺族ニ下付スヘシ遺族ハ之ヲ以テ扶助料請求ノ證ト爲スヘシ

第四條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其扶助料ノ轉給ヲ請フ者ハ前者ノ扶助料證書ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第五條 公權停止ニ因リ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫ヲ以テ請求ノ證ト爲スヘシ

第六條 官吏遺族扶助法第十一條及第十五條ニ當ル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ癡疾不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ扶助料ヲ請求スヘシ

第七條 扶助料ノ請求書ハ請求者署名シ後見人アレハ其後見人連署スヘシ親族ニ名親族ナキトキハ居住地ノ戸主ニ名連署シ市町村長ノ奥印ヲ受ケ第一條乃至第六條ニ掲クル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍調書ヲ添附シ地方長官ニ差出スヘシ

第八條 扶助料ノ請求ヲ受ケタル地方長官ハ查覈ノ上扶助料年額ノ計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

内閣ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ扶助料證書ヲ作り地方廳ヲシテ之ヲ本人ニ下付セム但一時ノ支給ニ

係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

扶助料證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第二章 納金ノ徵收

第九條 官吏遺族扶助法第二條ニ掲クル納金ハ俸給支給ノトキ各廳ニ於テ之ヲ徵收シテ國庫ニ納ムヘシ

第三章 扶助料ノ支給及停止

第十條 扶助料ノ支給ハ官吏恩給法施行規則第七條第八條第九條及第十條第一第三ノ例ニ依ル

第十一條 扶助料ヲ受クル者死去シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキハ地方廳ニ於テ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其扶助料證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第十二條 扶助料ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ公權ヲ停止セラレタルトキハ官吏恩給法施行規則第十三條ノ例ニ依ル

第十三條 大藏省ニ於テ第十一條第十二條ノ通知ヲ受ケタルトキハ官吏恩給法施行規則第十六條ノ例ニ依ル

雜 則

第十四條 水火災盜難等ニ依リ扶助料證書ヲ亡失シタルトキ及扶助料ヲ受クル者改氏名ヲ爲シタルトキハ官吏恩給法施行規則第十七條及第十八條ノ例ニ依ル

第十五條 明治十七年達官吏恩給令ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ同令ニ依リ扶助料ヲ受クル者ハ左ノ場合ニ於テ本則ニ依ル

- 一 死去又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ

一 恩給證書ヲ亡失シタルトキ  
 三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ(明治二十七年閣令第六號ヲ以テ改正)  
 第十六條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

○徵兵令 明治二十二年二月二十一日 法律第一號

第一章 總 則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スル義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役補充兵役及國民兵役トス(明治二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス  
現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年四箇月海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス(同上)

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 補充兵役ハ陸軍ニ在テハ第一補充兵役第二補充兵役トシ第一補充兵役ハ七箇年四箇月ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者ノ中所要ノ人員之ニ服シ第二補充兵役ハ一箇年四箇月ニシテ其年所要ノ第一補充兵員ニ超過スル者之ニ服ス又海軍ニ在テハ一箇年ニシテ其年所要ノ現役兵員ニ超過スル者之ニ服ス(同上)

第六條 國民兵役ハ分テ第一國民兵役第二國民兵役トス

第一國民兵役ハ後備兵役及第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服シ第二國民兵役ハ常備兵役後備兵役補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル者之ニ服ス(同上第五條ヲ改メ第六條ヨリ第九條マテ逐條經下)



第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ學アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第二章 服 役

第九條 陸軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵及補充兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁近衛師團ニ編入スル者ヲ除クハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス(同上本條改正)

第十條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十一條 抽籤番號ノ順序ニ由リ其年ノ補充兵役所要員ニ超過スル者ハ國民兵役ニ服セシム(同上追加第十條以下第十四條ヲ逐條繰下)

第十二條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十三條 滿十七歳以上滿二十八歳以下ニシテ官立學校小學校及理科等府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨シ豫備後備將校タル冀望ヲ有スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコト

ヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアルヘシ(明治二十二年法律第二十九號ヲ以テ改正)

第十四條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十五條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十六條 豫備兵後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス(明治二十八年法律第一十五號ヲ以テ改正)

第十七條 第一補充兵及海軍補充兵ハ現役兵ノ補充ニ充テ又戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス但第一補充兵ヲ以テ現役兵ノ補充ニ充ツルハ其服役ノ初年ニ限ル

第十八條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第一補充兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ第一補充兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキ之ヲ召集ス(同上本條追加第六條第十八條トシ以下)

第二十二條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス(同上本條追加第六條第十八條トシ以下)

第三章 免役延期及猶豫

第十九條 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第二十條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第二十一條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十二條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事

故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當

ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス

第二十三條 第十三條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十八歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故

滿二十八歲迄ニ止ミ又ハ二十八歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十

三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十三條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラス(明治二十

十九號同二十六年法律第四號同二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

外國ニ在ル者(朝鮮國ニ在ル者ヲ除ク)ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ猶豫ス滿三十二歲迄ニ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシ

テ之ヲ徵集シ三十二歲ヲ過クル者ハ國民兵役ニ服セシム但第十三條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル

者ハ此限ニ在ラス(明治二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

第二十四條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後

備兵ニ在ルト第一補充兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ(同)

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 雜則(同上第四章前條以下逐章編上)

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ又第二十

三條第一項ニ當ル者ニシテ二十八歲迄ニ事故止ミ同條第二項ニ當ル者ニシテ三十二歲迄ニ歸朝シタル者

ハ十四日以内ニ書面ヲ以テ戶主ニ非サル者ハ其月主ナリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歲未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル

者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス(同上改正)

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルモノトス(同上)

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シ

タル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 服役年期ノ計算ハ現役豫備役補充役及海軍後備役ニ在テハ各其役ニ就ク年ノ十二月一日第三十

第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算スヨリ陸軍後備役ニ在テハ其役ニ就ク年ノ四月一日ヨリ起算ス但第七條

ニ依リ延期シタルモノト雖モ服役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中及逃亡中ノ日數ハ現役年期ニ算入セス其豫備役年

期ハ現役ヲ終ル年ヨリ起算シ陸軍ニ在テハ第六年目ノ三月三十一日迄海軍ニ在テハ第五年目ノ十一月三

十日迄トス但第十條ニ依リ現役年期ヲ短縮シタルモノハ其現役ヲ短縮シタル場合ニ於ケル豫備役年期ニ

應シ本項ニ準シテ計算ス

豫備役後備役及補充役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服

役年期ニ算セス(同上本條改正)

第五章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以

下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レシカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六章 附 則

第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限リ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ漸チ以テ施行ス其時期區域及特ニ徵集ヲ免除シ若クハ猶豫ス可キモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(上同)

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス

第三十五條 現今陸軍豫備役ニ在ル者ノ服役年期ハ第三條ニ依ル其後備役ニ在ル者ハ常備役年期ヲ通シテ十二箇年四箇月トス(上同)

第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故八箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ八箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得(明治二十六年法律第四號ヲ以テ改正)

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス)ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ

第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ

第十三條第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十八歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(明治二十二年法律第二十九號ヲ以テ本項追加同二十六年法律第四號同二十八年法律第十五號ヲ以テ改正)

第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ(明治二十二年法律第二十九號ヲ以テ改正)

陸軍六週間現役兵條例

明治二十八年十月四日 勅令第四百四十一號

第一條 徵兵令第十三條第三項ニ依リ六週間陸軍現役ニ服セシムヘキ者ハ教職ニ就キタル年若クハ其ノ翌年ニ於テ其ノ居住地師管内ノ歩兵隊(警備隊ヲ置ク島嶼ニ在テハ警備隊ニ編入シ服役セシム(明治三十二年勅令第一號)ニ在テハ最寄ノ歩兵隊)ニ編入シ服役セシム(百十五號ヲ以テ改正)

第二條 六週間現役兵ノ入營期日ハ毎年六月一日(舊令ニ在テハ十月一日)トス但疾病其ノ他ノ事故ニ由リ期日ヨリ三日以

内ニ入營シ難キ者ハ翌年徵集ス(上)

戰時若クハ事變ニ際シテハ其ノ徵集ヲ延ハスコトアルヘシ

第三條 現役服役日數ハ入營期日ヨリ起算ス

第四條 六週間現役兵ノ教育ハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ隊長警備隊ニ在テハ司令官以下之ニ徵フ其ノ責ニ任ス

第五條 六週間現役兵中勤務勉勵品行方正ニシテ第二國民兵ヲ以テ編成スル部隊ノ幹部タルヲ得ヘキ材幹アル者ニハ聯隊長其成績ヲ具シ順序ヲ經テ師團長旅團長ニ在テハ旅團長ノ認可ヲ受ケ國民軍幹部適任證書ヲ授與ス(上)

第六條 六週間現役兵ノ身體検査ハ入營スヘキ年ニ於テ一般ノ徵兵検査ト同時ニ之ヲ行フ徵集ニ適セサル者ハ徵兵検査規則ニ照シ處分ス

北海道臺灣及沖繩縣ニ在ル者ノ身體検査ニ關スル規程ハ陸軍大臣別ニ之ヲ定ム(上)

第七條 検査往復旅費及入營旅費ハ官給ス

附 則

第八條 北海道ニ在ル者ハ第七師管ニ常備歩兵隊ヲ置ク迄ハ第二師管ノ歩兵隊ニ編入シ服役セシム

第九條 本令ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

明治二十三年勅令第二十二號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○陸軍六週間現役兵條例施行細則明治三十年四月五日 陸軍省令第九號

陸軍六週間現役兵條例施行細則左ノ通知正ス

第一條 六週間現役兵ノ身體検査ハ就職ニ就キタル年居住地所在ノ聯隊區内又ハ警備隊區内便宜ノ徵兵署ニ於テ之ヲ行フ但其ノ年ノ入營期日ニ切迫シ若クハ入營期日後就職トナリタル者ハ翌年廻トス

第二條 府縣廳ニ於テハ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り身體検査ニ先ダテ

之ヲ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ送付シ検査ノ手續ヲ協議スヘシ但官立小學校ノ教職モ亦本文同様該校所在府縣ニ於テ取扱フヘシ明治三十一年陸軍省令第四號ヲ以テ改正

第三條 聯隊區司令官警備隊司令官ハ六週間現役兵ノ身體検査ニ關シテハ尋常徵兵ト同一ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ附録第一様式ノ合格證書ヲ付與シ其ノ名簿ヲ師團長ニ差出シ且其ノ成績ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ

其ノ徵集ニ適セサル者ハ徵集延期徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集延期名簿ヲ北海道廳又ハ府縣廳ニ送付シ合格者並ニ徵集延期者ノ人名書徵集免除名簿及兵役免除名簿ヲ本籍所管ノ島司郡市長北海道ニ在テハ北海道支廳長、東京市、京都市、大阪市、明治三十一年陸軍省令第四號同三、及沖繩縣ノ區ニ在テハ區長以下同シ、十二年陸軍省令第九號ヲ以テ改正

第四條 師團長ハ合格者在職地ノ遠近ニ應シ適宜之ヲ各隊ニ配付スヘシ(明治三十一年陸軍省令第四號ヲ以テ但書削除)

第五條 北海道及沖繩縣ニ在テハ師團長地方官協議ノ上時宜ニ依リ就職ニ就クヘキ年身體検査ヲ爲シ又北海道ニ在テハ居住地所在ノ聯隊區外ニ於テ身體検査ヲ爲スコトヲ得(同上)

第六條 身體検査後入營前就職ヲ罷メタル者アルトキハ道廳府縣廳ヨリ直ニ師團司令部ニ通報スヘシ(明治三十一年陸軍省令第四號ヲ以テ但書削除)

第七條 臺灣ニ在ル者ノ身體検査ハ左ノ諸項ニ依リ施行スヘシ

一 總督府ニ於テハ身體検査ヲ受クヘキ者ヲ調査シ徵兵事務條例施行細則第一様式ニ準シ六週間現役兵名簿ヲ作り最寄ノ歩兵隊ニ送付シ身體検査ヲ施行セシムヘシ

二 歩兵隊長ハ第三條第一項ニ準シ身體検査及徵否ノ取扱ヲ爲シ合格者ニハ合格證書ヲ付與シ合格者及徵集延期ニ屬スル者ノ名簿ヲ總督府ニ差出シ總督府ニ於テハ第四條ニ準シ合格者ヲ各歩兵隊ニ配賦スヘシ

三 歩兵隊長ハ合格者及徵集延期ニ屬スヘキ者ノ人名書若クハ徵集ニ適セサル者ノ名簿ヲ添ヘ本籍所管

ノ聯隊區又ハ警備隊區徵兵官ニ通知シ該徵兵官ハ其ノ徵集ニ適セサル者ノ處分ヲ爲スヘシ(同上)  
 第八條 六週間現役兵退營スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ其ノ隊長警備ハ該名簿ヲ本籍所管ノ聯隊區司令官  
 又ハ警備隊司令官ニ送付シ聯隊區司令官警備隊司令官ハ之ヲ島司郡市長ニ送付スヘシ  
 條例第五條ニ依リ國民軍幹部適任證書ヲ授與シタル者アルトキハ聯隊長其ノ旨ヲ名簿ニ記載シ其ノ國民  
 軍幹部適任證書ハ附録第二様式ニ準シ調製スヘシ  
 第九條 國民軍幹部適任證書ヲ授與セラレタル者ニシテ懲戒處分ヲ受ケ又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ  
 受ケ若クハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ證書ヲ返還セシム  
 第十條 前諸條ニ掲クルモノ、外ハ師團長及道廳長官府縣知事協議ノ上之ヲ定メ臺灣ニ在テハ臺灣總督之  
 ヲ定ムヘシ(明治三十二年陸軍省  
 令第九號ヲ以テ改正)

附 則

明治三十年ニ於テ徵募スル六週間現役兵ノ身體検査ハ聯隊區司令部若クハ聯隊區内便宜ノ地ニ於テ施行ス  
 ルコトヲ得

(様式略ス)

○陸軍一年志願兵條例

明治二十六年七月十九日  
 勅令第七十三號

朕陸軍一年志願兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ服役スヘキ兵科及衛戍地ヲ選スコトヲ得(明治二十八年  
 號同三十二年勅令第四百十四號三十  
 五年一月勅令第十五號ヲ以テ改正)  
 第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、裝具費、彈藥費及兵器  
 修理費トシテ金六十二圓糧食費トシテ金四十六圓ヲ納メシム又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費

裝飾費、剃毛費及馬藥費トシテ更ニ金百九圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足チ生スルトキハ之ヲ追徵シ  
 殘餘アルトキハ之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム(三十五年勅令第十  
 五號ヲ以テ改正)  
 第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長聯隊長以下同シ外泊ヲ許シ通勤セ  
 シムルコトヲ得

第四條 (三十五年勅令第十  
 五號ヲ以テ削除)

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其検査往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 (全  
 上)

官費服役出願者前項ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ廻シ入隊セシム(明治二十八年勅令第  
 七十四號ヲ以テ追加)  
 第七條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由ナクシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺キタル年ハ服役年期ニ  
 算セス(同上本  
 條改正)

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ニ戶籍謄本ヲ添ヘ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司郡市長東京京都大阪三市  
 ハ區長北海道ニ在テハ北  
 海道廳支廳長以下同シニ送付シ居住地所管ノ師團長ニ差出スヘシ但徵兵令第十三條ノ學校卒業者ハ卒業證書  
 寫及戶主ニアラサルモノハ戶主二十歳未滿者ハ戶主若クハ後見人及親權ヲ行フ父又ハ母ノ承認書ヲ添附  
 スルヲ要ス(明治二十八年勅令第三十四號同二十九年勅令第九十一號同三  
 十二年勅令第四百十四號同三十五年勅令第百廿一號ヲ以テ改正)  
 島司市長ハ志願者ノ身元資産並ニ犯罪有無ノ證明書ヲ製シ其願書ニ添附スヘシ

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月三十一日  
 迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書寫ヲ

添ヘ師團長ニ届出ヘシ(明治二十八年勅令第三十四號同二十  
 九年勅令第九十一號ヲ以テ改正)  
 第十條 師團長ハ第八條ノ志願者中學術試驗ヲ受ケヘキ者ノ人員ヲ各検査場ニ區分シ二月二十日迄ニ教育

總監ニ具申シ又人名書ヲ身體検査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス(明治二十九年勅令第九十一號同三十二年勅令第九十四號同三十五年勅令第九十七號ヲ以テ改正)

第十一條 一年志願兵ノ學術試験格例ハ毎年陸軍大臣之ヲ告達ス(明治三十二年勅令第九十四號ヲ以テ改正)

第十二條 師團長ハ學術試験ヲ受ケヘキ者ノ身體検査時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ本人ヲ検査地ニ召集ス

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試験ヲ受ケヘキ者ノ身體検査ヲ爲サシム其合格者ハ陸軍將校生徒試験臨時委員ヲシテ學術試験ヲ行ハシム(明治二十七年勅令第八號同二十九號同三十二年勅令第九十一號ヲ以テ改正)

第十四條 師團長ハ試験ノ成績ニ據リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ(同)

第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常ノ徴兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第十五條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十六條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第二條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月以上經過ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシム更ニ三箇月以上經過ノ後伍長ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム其ノ一等卒上等兵ヲ命シ及伍長ノ階級ニ進ムルハ聯隊長ニ於テスルモノトス(明治三十二年勅令第九十四號同三十五年勅令第九十七號ヲ以テ改正)

其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシム其成績ヲ具シ師團長歩兵ニ在テハ旅團長ヲ經テ

認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ一等軍曹ニ其ノ落第者ハ伍長ニ任シ豫備役ニ編入ス(明治二十九年勅令第九十一號ヲ以テ改正)

第十九條 (三十五年勅令第九十二號)

第二十條 (上)

第二十一條 醫學、藥學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ歩兵隊ニ獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫、藥劑生、獸醫生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入隊ノ際其卒業證書ヲ添へ出願スヘシ

前項ノ獸醫生タレントスル者ハ第二條ノ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス

第二十二條 前條ノ志願者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月上後上等兵ヲ命スヘシ

一等卒及上等兵ヲ命スルハ聯隊長ニ於テシ軍醫、藥劑師、獸醫生ハ師團長ノ認可ヲ受ケ二等書記ノ階級ニ進ムルハ師團軍醫部長又ハ師團獸醫部長ニ於テスルモノトス

第二十二條ノ二 軍醫、藥劑生又ハ獸醫生志願者ハ戰時又ハ事變ニ際シテハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ヲ經過シタル後上等兵ヲ命シ軍醫、藥劑生又ハ獸醫生ト爲スコトヲ得(三十五年勅令第九十二號同三十二年勅令第九十四號ヲ以テ追加)

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 軍醫、藥劑生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長、獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫官、各其責ニ任スルモノトス

第二十四條 軍醫、藥劑生、獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十五條 軍醫、藥劑生、獸醫生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際師團軍醫部長若クハ獸醫部長終末試験委員ヲシテ終末試験ヲ爲サシム其及第者ニハ軍醫部長、獸醫部長ハ其成績ヲ具シ師團長ノ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ豫備役ニ編

入ス

其落第者ニ在テハ軍醫生ハ看護長適任證書、藥劑生ハ調劑手適任證書、獸醫生ハ蹄鐵工下長適任證書ヲ付與シ豫備役ニ編入ス

各適任證書ノ付與ハ軍醫生、藥劑生ニ在テハ軍醫部長ヨリ陸軍省醫務局長、獸醫生ニ在テハ當該隊長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クルモノトス(明治二十九年勅令第百九十一號ヲ以テ本條改正)

第二十五條ノ二 一年志願兵中疾病其ノ他ノ事故ニ由リ豫備士官タルヲ得ヘカラスト認ムル者ハ第十八條第二十一條第二十二條及第二十二條ノ二ニ依ラス通常ノ勤務ニ服セシム

伍長ノ階級ニ進メタル後及軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ命シタル後前項ニ該當シタル者ハ伍長ノ階級、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免ス

第一項ニ當ル者ノ中下士タルヲ得ヘキ見込ノ者アルトキハ下士ノ勤務ヲ練習セシメ服役滿期ノ際其ノ成績ニ依リ下士適任證書ヲ付與シ又ハ第二十五條終末試驗落第者ノ例ニ依ルコトヲ得

下士ノ勤務ヲ練習セシムル者ニシテ未タ上等兵トナラサルモノアルトキハ服役滿期迄の間ニ於テ之ニ上等兵ヲ命ス

上等兵ヲ命スルハ聯隊長ニ於テシ、下士適任證書ヲ付與シ及伍長ノ階級ヲ免スルハ師團長ノ認可ヲ受ケ聯隊長ニ於テシ、軍醫生、藥劑生、獸醫生ヲ免スルハ第二十二條第一項ノ例ニ準ス

第二十六條 師團長ハ毎年一年志願兵ノ終末試驗格例ヲ定メ豫メ之ヲ告達ス

第二十七條 終末試驗委員ハ聯隊長之ヲ編成ス

軍醫生、藥劑生、獸醫生ノ終末試驗委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫部長及獸醫部長ノ指揮ニ屬ス(同上)

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシムヘシ

第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應ジ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊長ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタル者ハ該隊長ト同一トス

軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス(明治二十七年勅令第八號ヲ以テ但書追加改正)

第三十條 戰時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ(明治二十八年勅令第三十四號ヲ以テ改正)

通常ノ現役勤務ニ服セシメタルトキハ階級相當ノ給料ヲ給シ服役ニ關スル費用ハ之ヲ官費トス

第三十一條 第八條ノ願書ヲ差出シタル後入隊迄ノ間ニ於テ轉籍、轉住、氏名變更、犯罪、死亡其ノ他願書及其ノ添付書類ニ記載セル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ本人又ハ其ノ親族ヨリ師團長ニ届出ツヘシ

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止テ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添へ入隊延期ヲ該隊所管ノ師團長ニ出願スヘシ(同上)

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難キト認ムルトキハ旅團長之ヲ次年廻シト爲シ聯隊長及本人ニ通知スヘシ

第三十三條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年廻シト爲リタルトキハ本籍所管聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ届出ヘシ(明治二十九年勅令第百九十一號ヲ以テ改正)

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第三十五條 一年志願兵中左ノ事項ニ當ルモノハ現役ヲ免シ第二國民兵役ニ服セシム但傷痍若クハ疾病ニ由リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

一 傷痍若クハ疾病ニ由リ服役ニ堪ヘ難キトキ  
二 本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル事故ヲ生シ其ノ家族ヨリ免役ヲ願出タルトキ(明治二十八年勅令)

第三十四號同二十九年勅令第百九十一號ヲ以テ本條改正

第三十六條 前條ノ家族自活シ能ハサル事故ニ由リ免役ヲ願出ントスル者ハ其ノ願書ニ近隣ノ戸主二名ノ保證書ヲ添ヘ島司郡市長ヲ經テ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官ニ差出スヘシ但町村ニ於テハ町村長町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者ノ與書證印ヲ受クヘキモノトス

島司郡市長ハ其ノ事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り願書ト共ニ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官ニ送付シ同官ハ之ニ意見ヲ附シ願書ト共ニ聯隊長ニ移スヘシ明治二十九年勅令第百九十一號ヲ以テ本條改正  
第三十七條 第卅五條ニ當ル者アルトキハ聯隊長ハ師團長ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分ス明治廿九年勅令第百九十一號ヲ以テ追加條ヲ續下

附 則

第三十八條 明治二十七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ豫備役年期ヲ通シテ十一箇年四箇月トス明治二十八年勅令第百九十一號ヲ以テ改正

○陸軍一年志願兵條例施行細則

明治廿六年七月二十二日 陸軍省令第十號

陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通改正ス

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 條例第二條ノ所屬隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品左ノ如シ

- 一 第一種帽 前立共
- 二 第二種帽
- 三 第一種衣袴
- 四 第二種衣袴
- 五 夏衣袴 二著

六 日覆

七 外套

八 脚絆

九 第一種手膜

十 背囊

十一 被服手入具

十二 飯盒

十三 水筒

十四 寢具

第二條 糧食費自辨ノ者ハ行軍若クハ野外演習中ノ糧食費亦自辨トス

第三條 條例第八條ノ願書ハ附錄第一第二樣式ニ承認書ハ第三樣式ニ證明書ハ第四樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第三條ノ二 學術ノ試験ヲ受クヘキモノハ身體検査ノ際新タニ撮影シタル寫眞紙裏面ニ族籍氏名ヲ自書シタルモノ一葉ヲ検査醫官ニ差出スヘシ三十三年五月陸軍省令第十一號ヲ以テ改正

第四條 條例第十三條ノ身體検査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員ニ通知シ條例第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告シ師團長ハ其ノ身體検査ニ不合格ノ者二十歳未満ノ者ヲ除クノ體格検査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送付スヘシ明治二十九年陸軍省令第十號ヲ以テ改正  
願書差出後轉籍其ノ他止ムヲ得サル事故アリ他ノ師管ニ於テ検査ヲ受ケンコトヲ願出ル者アルトキハ甲乙師團長協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ許可スルコトヲ得明治三十二年陸軍省令第十一號ヲ以テ追加  
前項ニ依リ乙師團ニ於テ検査ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ甲師團ニ通知シ甲師團ニ在テハ其ノ師管内



ニ於テ検査シタル者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ(上)

第五條 條例第十四條第二項ニ依リ身體検査ヲ爲ス可キ者ノ人名ハ師團長ヨリ聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及場所ヲ告示ス可シ(明治廿九年陸軍省令第十二號ヲ以テ改正) 願書差出後轉籍其ノ他止ムヲ得サル事故アリ他ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ身體検査ヲ受ケンコトヲ願出ル者アルトキハ甲乙聯隊區司令官又ハ警備隊司令官(沖繩警備隊區ニ在テハ該司令官以下同シ)協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ許可スルコトヲ得(明治二十九年陸軍省令第十二號同三)

前項ニ依リ乙聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ甲聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ通知シ甲聯隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ其ノ聯隊區又ハ警備隊區ニ於テ検査シタル者ト同一ノ取扱ヲ爲スヘシ(上)

第六條 身體検査終ル後聯隊區司令官又ハ警備隊司令官其人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ報告スヘシ(上)

師團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者二十歳未満ノ體格検査表ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ送付スヘシ(明治三十三年陸軍省令第十一號ヲ以テ改正)

第七條 第四條及第六條ノ身體検査不合格ノ者ハ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其ノ一時徵集ニ適セサル者ハ徵集延期ノ處分ヲ爲スヘシ

第八條 師團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ検査ニ不參セル者並學術試験ニ落第セシ者若クハ闕席シタル者二十歳未満ヲ本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知ス可シ但シ身體検査ヲ受ケタル者ニ在テハ體格検査表ヲ添フヘシ 聯隊區徵兵官警備隊區徵兵官前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ該徵集區ノ抽籤施行前ニ在リテハ相當ノ處分ヲ爲スヘシ(上)

第九條 師團長ハ合格人員中所管外ノ衛戍地ニ於テ服役スヘキ者ノ人名書ニ各徵集ノ兵科及衛戍地ヲ記シ當該所管師團ニ通知スヘシ

同兵種二隊以上アル衛戍地ニ於テ服役冀望ノ者アルトキハ前項ノ通知ヲ受ケタル師團長其ノ隊號ヲ指定シ之ヲ居住地所管ノ師團長ニ通知スヘシ(明治三十二年陸軍省令第十一號)

第十條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附録第五様式ニ官費服役證書ハ第六様式ニ依リ作ル可シ但條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲ス可キ者ハ官費服役證書ノ餘白ニ其旨ヲ記載ス可シ(明治二十八年陸軍省令第五號ヲ以テ改正)

第十一條 師團長ハ同兵種二隊以上アル衛戍地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニハ成ル可ク之ヲ各隊ニ平均スヘシ(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ改正)

官費服役者中醫學、藥學、理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊(理財學、商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團司令部所在地步兵隊ニ限ル)醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ配付スヘシ

第十二條 師團長ハ一年志願兵認定證書ヲ付與シタル者ヲ自費服役、官費服役、次年廻シ等ニ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長(聯隊長ヲ爲サ、ル隊ニ在テハ該隊長以下同シ)ニ下付スヘシ(上)

第十三條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名ヲ師團長ニ報告スヘシ但二十歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ(上)

第十四條 條例第三十一條第三十二條第二項第三十四條及入隊前第三十五條ニ當ル者アルトキハ師團長之ヲ聯隊長ニ達スヘシ但廿歳以上ノ者ニ在テハ尙本籍地ノ聯隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知スヘシ(上)

前項ノ者官費服役者ナルトキハ條例第六條第二項ニ依リ次年廻シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得(明治二十八年陸軍省令第五號ヲ以テ改正)

第十五條 一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附錄第七様式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十六條 條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ軍醫部長若クハ獸醫部長ニ送付シ監督部長、軍醫部長、獸醫部長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス(明治二十九年陸軍省令第十二號ヲ以テ改正)

第十七條 軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ更ニ徒歩刀ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十八條 師團長ハ一年志願兵終末試験終リタルトキ附錄第八様式ニ依リ成績表ヲ作り陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十九條 一年志願兵終末試験及第證書ハ附錄第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス可シ

第二十條 一年志願兵入隊前轉任其他止ヲ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ル者アルトキハ師團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轄外ニ係ル者ハ豫メ當該師團長ト協議スルヲ要ス(同上)

(様式略ス)

第二十一條 一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還付ス

第二十二條 條例第三十九條ニ依リ服役スル者ニハ第一條ノ被服裝具中第一種帽ヲ給セス

第二十三條 條例第三十九條ニ依リ服役ヲ志願スル者ノ身體検査ノ場所及志願者招集ノ手續ハ臺灣守備混成旅團長聯隊區司令官ノ職務ハ一年志願兵検査委員之ヲ行フ(三十三年五月陸軍省令第十一號ヲ以テ改正)

○砲兵工廠軍用銃及火藥類拂下手續抄

明治三十二年八月十八日 陸軍省令第二十三號

第一條 砲兵工廠ハ本年勅令第三百六十六號及本年內務省令第四十三號ニ依リ廳府縣長官又ハ警察官署ノ免許若クハ許可ヲ得タル者火藥類ノ拂下ヲ願出ルトキハ左ニ列記スルモノニ限り許可スルコトヲ得

一 私立中學校以上及之ト同等ノ資格アル私立學校

第二條 砲兵工廠ハ官廳公署、官公立中學校以上若クハ之ト同等ノ資格アル官公立學校ヨリ火藥類拂渡ノ求ヲ受クルトキハ之ニ應スルコトヲ得

第三條 砲兵工廠ハ官廳公署、官公立中學校以上若クハ之ト同等ノ資格アル官公立學校其他本年勅令第三百六十六號及本年內務省令第四十三號ニ依リ廳府縣長官又ハ警察官署ノ免許若クハ許可ヲ得タル者ヨリ軍用銃ノ拂下ヲ願出ルトキハ之ニ應スルコトヲ得

明治三十二年勅令第三百六十六號ハ銃砲火藥類取締法施行規則、同年內務省令第四十三號ハ銃砲火藥類取締法施行細則ナリ

○閏年算定方

明治三十一年五月十日 勅令第九十號

神武天皇即位紀元年數ノ四ヲ以テ整除シ得ヘキ年ヲ閏年トス但シ紀元年數ヨリ六百六十ヲ減シテ百ヲ以テ整除シ得ヘキモノ、中更ニ四ヲ以テ其商ヲ整除シ得サル年ハ平年トス

○年齢計算方

明治三十五年十二月一日 法律第五十號

年齢ハ出生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

民法第四百十三條ノ規定ハ年齢ノ計算ニ之ヲ準用ス

明治六年第三十六號布告ハ之ヲ廢止ス

(參照)





營業科目

官廳  
學校  
社會  
學

御用達

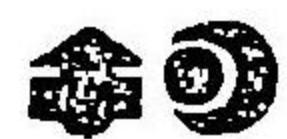
南店

橋本町廿六番七地

活版石版寫真版  
其他活字鑄造販賣  
**印刷**  
洋式帳簿製造  
諸紙卸賣

奈良縣報印刷發賣  
收入印紙賣下所

明治七年創業



奈良市橋本町  
本店 奈良明新社  
大阪市備後町井池角  
電話略語(サカ冬)

大阪市備後町井池角  
電話特東三三九三番  
阪田仕入店

北店

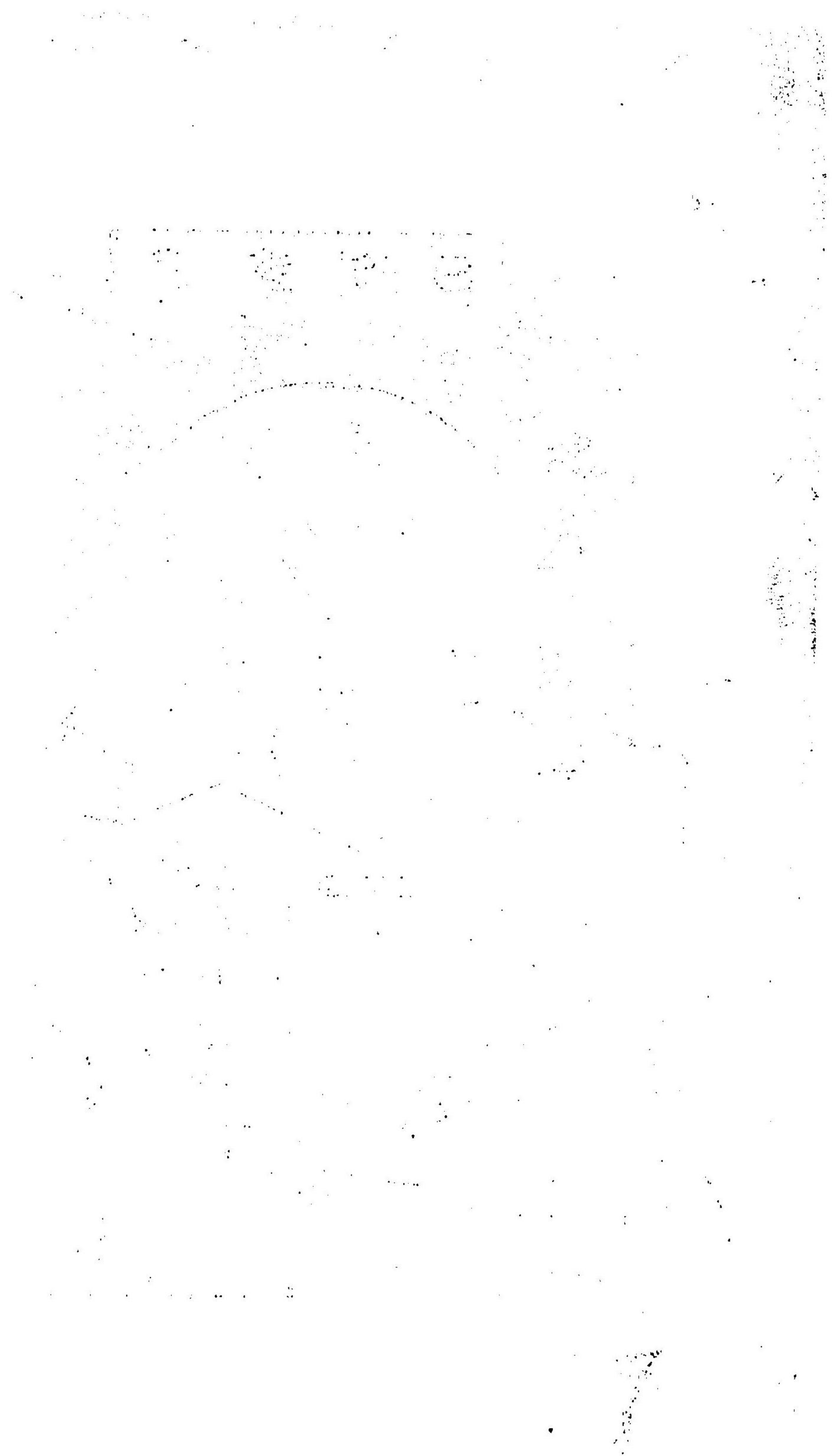
橋本町廿五番地

學校用品  
**書籍**  
文具具類

中店

販賣  
並  
修

文具具類



038476-001-3

CZ-1613-79-03

学事法規

辻 万三

杉村 信義 / 編

M36-37

BCA-0066

